

八面神社

私の生まれたのは、八面神社（やつおもてじんじゃ）の近くで、現在もここに居を構えている。八面神社は幟城地区の中心で見晴しのよい高台にある。

広い境内と近郷には珍しい御神木タブの木を中心にした檜、椿などの社叢、その中で通称メメの木とっていた棕の木で子供の指先程の黒い実、甘くてしっとりとした舌ざわりでいくら喰ってもあきない。

広い境内は陣取り、かくれんぼ等、日の暮れるのを忘れて遊んだ。森の中の五舞笹を頭に巻いて神楽の真似をしたり、神社の境内は子供の頃の思い出が一杯ある。それでいてこの神社の御神体がどんなものか、見たこともなく見ようとしなかった。それがいつか神社の総代に選ばれて御神体を見て余りにも変わった御神体であるのに驚いた。そして強い好奇心を覚えた。

だがこの神様が私や地区とどんな関係があるのか解からないまま数十年が過ぎた。数日前のことである神社総代の引地哲彦君が来て、この度、八面神社の一部改修することに成った。ついてはこの機会に、八面神社の沿革について調べて貰いたいということである。改めて八面神社の歴史に就いて深く考えて見る事になった。そして御神像と二度目の御対面である。

御神像の高さは約一尺五寸位一身八頭のズンドウ形である。材は松、年輪は荒く若木である。一身八頭の四面二段重ねに描き、赤黄青の三色に彩色されている。御神体の胸のあたりに桃の実が一つと、真言宗の仏具である三鈷の絵が描かれている。さて気になる八面神社という名前である。

この名称になったのは余り古いことではなく、昔は八王社と言っていた様である。それは文政十二年(一八三〇)の獅子頭を入れる木箱の側面に八王社と墨書きしてある。八王社とは八人の王様を祀った社ということで、一般には八王は八大龍王と伝えられ稲作農民の命、水の精である。龍一身八頭は、八岐の蛇だと言われている。龍こそは八面神社の本尊と伝えられている。古事記、日本書記、風土記の出雲神話に素佐男命が八岐オロチを退治した話に八岐のオロチの身は八つの丘、八つの谷に跨るとあり、尾の先より村雲の剣(三種の神器の一つ、後の草薙の剣)が出てこれを天照大神に献じたとあるのは八岐オロチが鉄を産し之を精錬する技術を持っていたことを物語っている。物語の本場中国山地は、概ね鉄鉱と砂鉄の産地であり精錬する技術を持つ氏族の居住地である。出雲の大国主命には沢山の名があるが、その中で大穴持神（オオナムチ）と云うのは大穴＝鉄山を沢山持っているの意である。

沼田町阿戸、吉山には産鉄の神、金屋彦の神を祭る神社が数社あり、奥畑には八面神社の真向いに鉄穴があり、この所の地名を赤段原小字をクサが丈と呼ぶのはクサは吹き出もの金の吹き出るを地名にしたもので隣の字名、赤芻も鉄山に関わる地名である。

この様に古代に於いては、鉄を制する者が豪族であり出雲の素佐男命、大国主命然り。神話で悪者とされる八岐オロチも、一級の産鉄の神である。御神体に桃の絵が描かれてあるのは魔除けのマジナイであり、仏具の三鈷の絵も魔除けの具であり神仏混合時代の産物で、神仏何れにもとらわれず自由な思想で描かれているのはおもしろい。又八王社を八面神社に名称を変更したのは近世の事で蒲生君平の山陵志青山延宇（サンリョウシアオヤマエンウ）の皇国史略等、尊皇思想の高まる中で、オロチを祭るのは何となく憚られ、八王社を八面と変更して皇統の五男三女を祭ると

したものであろう。

尚今は廃れているが、八面神社の年中行事として昭和初期まで行なわれたものに獅子舞がある。神事とは言え夏の日盛りに、太鼓をかついで約百軒の家を廻り獅子を舞い、笛太鼓で賑やかに台所から寝室迄お祓いして麦初穂を供えて貰うのであるロマンチックな様だが大変疲れる行事である。だが年に一度神様と氏子とのつながり確かめ合う行事でもある。

それと神様のみそぎである。

夏祭りの頃、部落の子供等が集まって御神像を神殿から出して、神社の御旅所の傍を流れる奥畑川にお連れして、神様のお祓いと言つてよく御神像を洗い子供達と一諸に終日遊ぶのである。明治二十年頃迄行なわれた様である。神様のみそぎである。

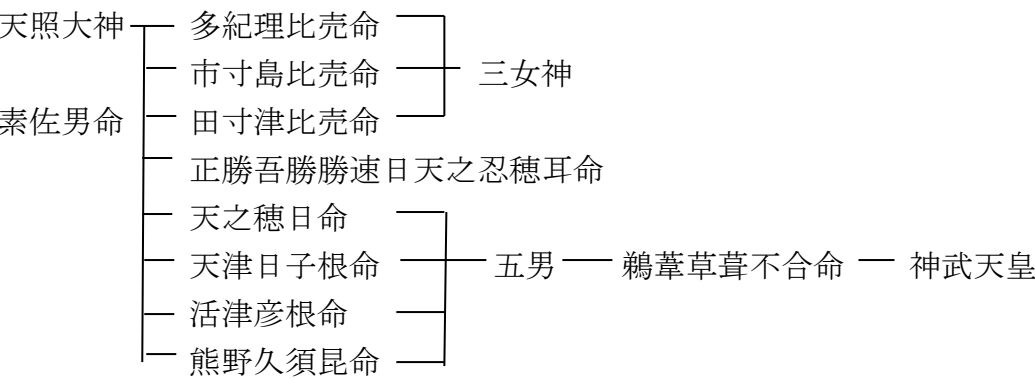
話は後に戻るが、八岐オロチと言えはすぐに頭に浮かぶのは出雲神楽で、須佐男命に切り殺される場面で素佐男命とオロチの大立廻りであるが本当は八岐のオロチは出雲簸の川の川上を木柵に山陰、山陽に勢力を持つ大豪族で日本書記では八ツの丘、八ツの溪に跨がると表現している。この大豪族であるオロチが殺されて、一言半句の弁解もせず未来永劫悪者とされ、その同族は社会から無視され、或いは敵視される。その無念残念子子孫孫に至まで怨念となつて、天下社会に害を及ぼすと考えられ、この怨念をなだめ慰めその霊を鎮める為、之を神として祭る八面神社発生の原点であろうと思う。

この類型としては菅原道真の天満宮がある。

平安期稀に見る大政治家菅原道真は、政敵藤原時平の策謀によって、筑紫の太宰府に配流され延喜三年この地に死んだ。その年の夏以来天候不順疫病の流行、藤原時平を初め政治家が続々死んだ。これは道真の怨霊崇りとされ、おそれられた。道真の死後二十年道真を本官に復し、その後百年にして天満天神として祭られた。

崇徳上皇は皇位継承に不満を持つ藤原頼長、源為義に擁せられて京都に於いて乱を起し、破れて讃岐に配流された。保元の乱である。上皇は京都に復帰する事を望んだが許されず、我大魔王となりて天下に仇を成さんと宣言し、怨みを呑んで讃岐に死んだ。後京北今出川に白峯神社に神として祭られた。

参考＝五男三女とは



※続八面神社

八岐オロチを祭る神々

明治四十五年度版高田郡誌吉田町に、八面荒神社があり、祭神は八岐のオロチの霊を祀るとされている。

同町に「クジラダ」櫛稲名田川（クシイナダガワ）櫛稲名田橋（クシイナダハシ）あり。

八面神社通称やつもてさん。
廿日市市地御前今市に在り八岐ノオロチを祭る。
(芸藩通志所載)
以上

藤広繁吾さんの記録集より